

1. 背景

「西成特区構想」の検討が市長によって打ち出されて以降、メディア等からの注目を集めることとなったが、ともすれば、「あいりん地域」における諸課題といったマイナス面のイメージが先行しがちとなり、区民の思いとしては、特区構想によって課題解決に向けた動きが加速することへの期待の反面、そうしたマイナスイメージが先行することへの懸念もある。①ひとつは隠された魅力の発掘、広報と、②それからマイナスイメージ、地域差別（西成差別）をきっちり学ぶことを通じた、正しい歴史の理解と地域力の鍛えという2方面の推進事業が必要である。

2. 現状

西成区においては、スポットライトのあて方によっては十分魅力的なコンテンツが豊富に存在する。

- ・山王・太子エリアのゲストハウス（元簡易宿所）に外国人バックパッカーが年間10万泊
- ・大衆演劇の劇場が区内に3館（梅南座、鈴成座、オーエス劇場）
- ・南海汐見橋線、阪堺線はローカル情緒あふれる鉄道
- ・地ソース、伝統野菜（勝間なんきん）を活かしたスイーツなど地元発信の食文化
- ・千利休にゆかりの天下茶屋
- ・木津川には3つの渡船
- ・芸人が多く住んだ「てんのじ村」…芸人に優しいまち：現在も西成にゆかりのある芸人多い
- ・生根神社「だいがく」祭りなどの伝統行事
- ・西成区にゆかりのあるセレッソ大阪、大阪フィルハーモニーとの連携
- ・西成ジャズをはじめとした、多様な音楽文化？
- ・B級グルメ
- ・街道や、下町的エリア、寄場などの、歴史的景観
- ・密集市街地の路地、石畳、空堀や中崎化、天下茶屋も
- ・移民の街西成、在日コリアンや沖縄、奄美出身者のローカルなつながり、文化
- ・勝間村の違う意味での地域ブランド、津守新田は？ 木津川、十三間堀川
- ・地域差別に関してきっちり学べる研究や運動の系譜や伝統

今までもPRに努めてきたものの、単発のイベントにとどまったり、区域外への発信力が弱いなど、区のイメージアップに十分に活かしきれていなかった。またマイナスイメージの成り立ちを学ぶことから地域力を高める試みは、まったく取り組まれてこなかった。外国人にも大きく関心を持ってもらうことのできる賢くなる社会的ツア。関心の高いことは実証済み。

3. 今後の取り組みについて

様々なコンテンツが西成区に点在する中、それぞれをつなげる参加型メディアを生み出していく。

まず一つ目に人や情報が行き交う「場」を形成していく。西成とひとことで表現しても、その中には、在日コリアン、沖縄県人など、様々なマイノリティも混在し、様々な顔を持ったエリアが集まっている。それぞれ特徴的で魅力的な地域性を、カフェや、コミュニティスペース、既存の資料室や、商店街などを活用し、地域の歴史、文化、まちづくりなどの情報を発信していく。空いた空間を利用した市街地再生のユニークな試みでもある。これら様々な場がさらに連携して、地域内外の交流を促し、西成の魅力的なコンテンツを発見・共有・アーカイブしていく。そのために直ちに大学などと連携した西成情報・アーカイブ館を設立、当面は空きスペースを利用したギャラリーや資料館を設立、もちろん、区政に関するデータ収集、分析の拠点とする。

二つ目に、こうした指向に連動してまちを感じることでできる「まち歩き」をベースにして、上記の数多くのコンテンツをつなぐウォーキングコースを複数設定し、コースマップや西成の歴史を掲載した小冊子を作成、恒常的に「ウォーキングタウン」としての魅力を発信するとともに、「西成メディカルウォーク」「西成ミュージアムウォーク」「西成人情ウォーク」「世界バックパッカー会議（仮称）」「ルール&アートウォーク」などと題してウォーキングイベントを開催。「健康」と「観光」のふたつのキーワー

ドを柱に、区役所だけにとどまらず、地元の商店街、鉄道会社、観光学専攻の大学等とのコラボレーションにより西成区の魅力を多角的に発信する。

三つ目に、多様な組み合わせを楽しむ「コラボレーション」企画を展開する。西成区にゆかりのあるタレントとのコラボレーションを新たに実施するとともに、セレッソ大阪や大阪フィルハーモニーとの連携に引き続き取り組むことにより、西成区の PR キャンペーンを行う。それにより単なるイベント開催に終わらせない継続した PR を実施するとともに、常にマスメディアへの露出を意識した広報活動・メディア展開を図り、区民・市民のイメージアップにつなげてゆく。

仮称「西成情報・アーカイブ館」

機能：西成区の都市形成の歴史、大変ユニークな個性ある都市の歴史を見せる資料と写真

近郊農村から近代都市のつぼへ、あるいは別荘地として（西成郡今宮村、木津村、勝間村、津守新田、東成郡天王寺村）、まちなみの変遷、釜ヶ崎、西成北西区、勝間玉出、天下茶屋、移民都、工都、水都スタディツアー対応の社会的歴史的ミュージアム

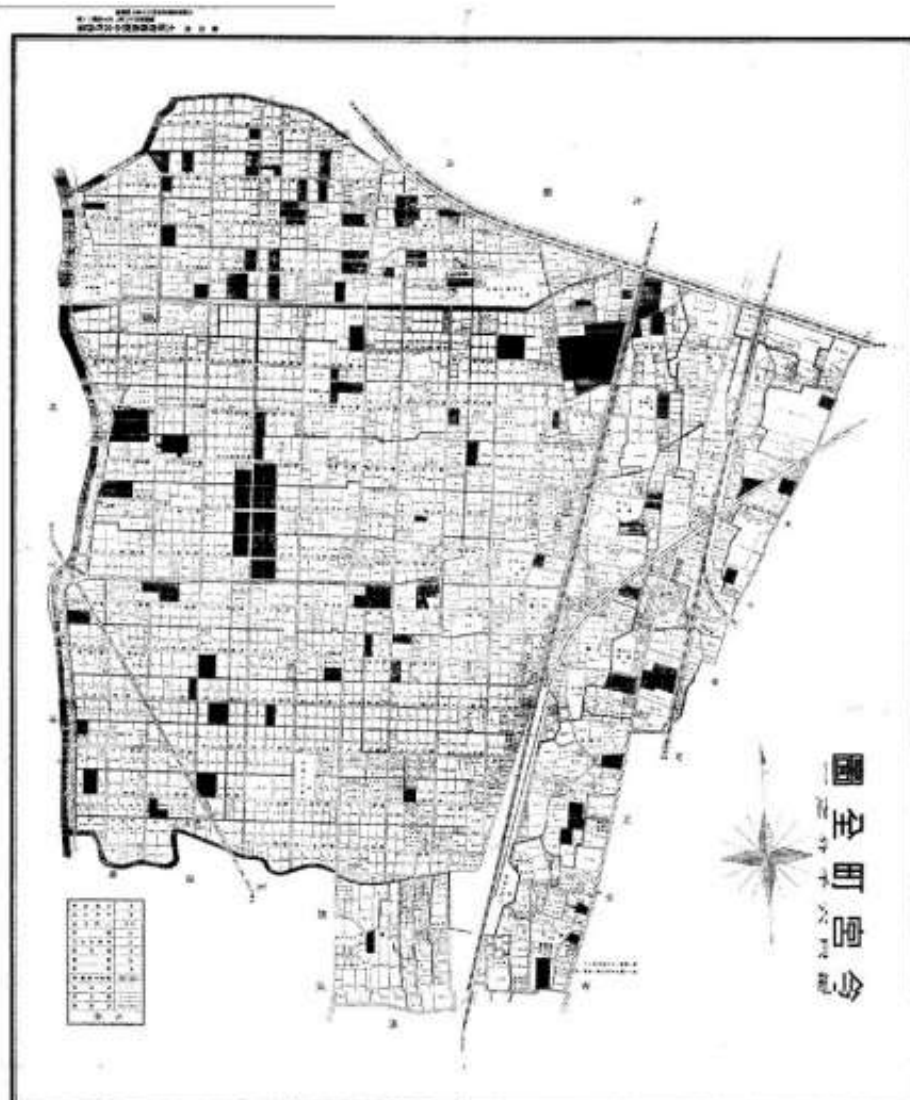
マテリアル：都市研究プラザ釜ヶ崎アーカイブ（あいりん資料室）、現物と 8000 点以上の上畑写真集と、1 万点ほどの資料のデジタルファイル、それと現物、貴重書、貴重な地図（釜と西成北西区）

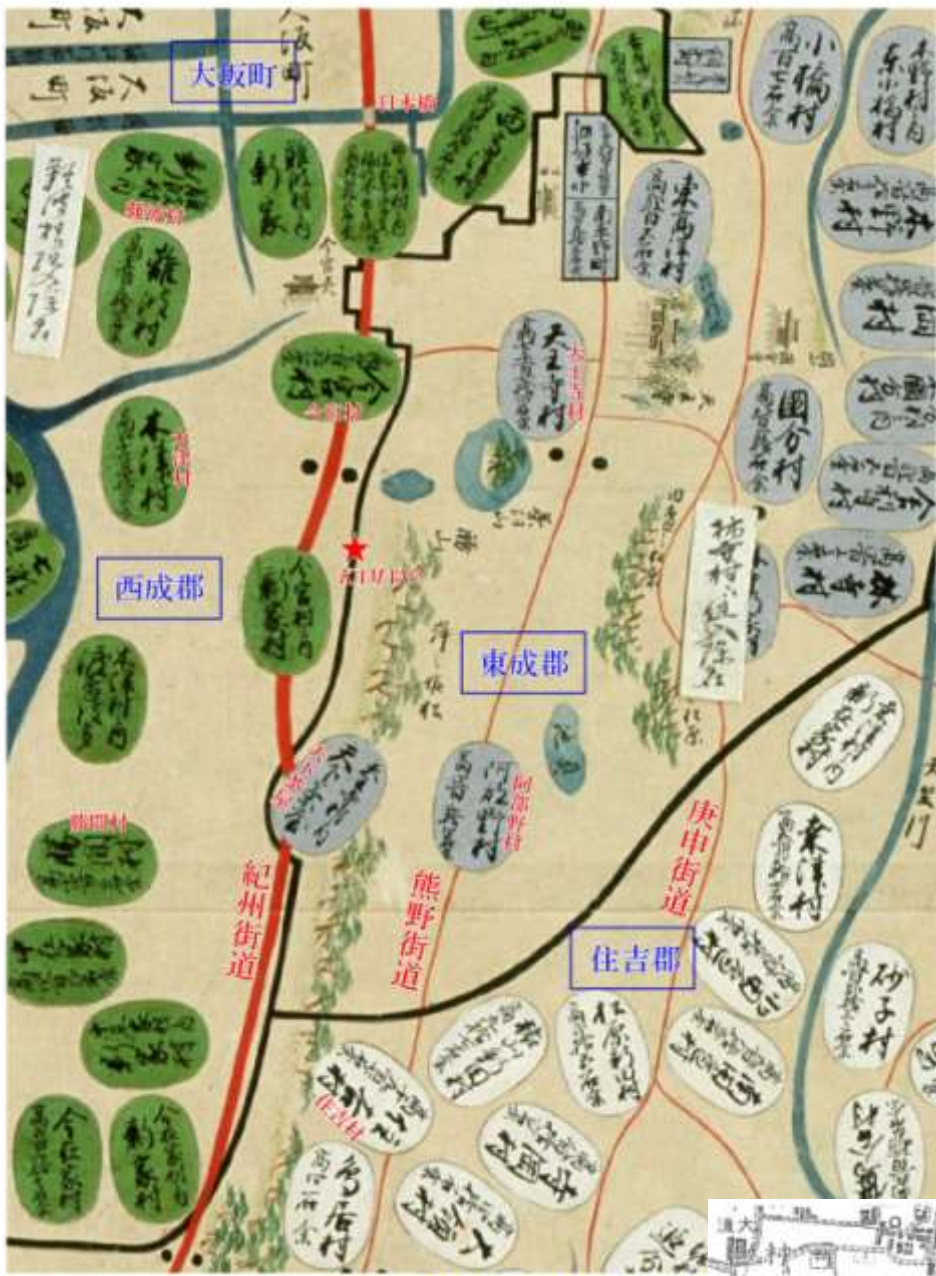
言語：すくなくとも、英語対応を可能にする

スペース：3 ヶ所くらいこうしたまちかどスペースを有するところをネットワーク化、拠点に関しては、そこをセンターオブセンターにする。もちろん汐見橋線や阪堺線もそうしたスペースになりえる。

スタッフ：ネットワーク化されたサブセンターは既存人的ネットワークに乗せてもらうが、拠点には何らかの資金で人を用意する必要がある。ここに大学との連携を考える。マッチングファンド。このスペースが大学の講義にも利用できると価値は大変高い。

企画：ミュージアムネットワークを利用しながら、さまざまな企画は分担して発信する。





天保国絵図（1835年～1938）

